

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

2020年を生かされて

金光教神奈川山梨教会連合会

信徒部次長 山田初子

この連合会に参加させて頂き早や四年目を迎えます。

信徒部で、「女性のつどい」を担当させて頂いています。昨年は8月に子安教会に於いてコロナ感染対策をし、講師の中尾教子先生には工夫を凝らして頂いて、楽しく「スマホ」の勉強をさせて頂きました。

その中で私が一番印象に残ったのは「人はある物の図形の一部を見ると、後は想像で全体の図形を完成してしまう」ということでした。その場で実際にペンとボードを使って試してみると、参加者のほとんど全員が色々な完成図を描きました。それほど人によって認識や考え方が違うんだな、ということがよく分かり

ました。

今年の女性のつどいは、6月に丸子教会に於いて、お二人のご信者さんによるお話、「私にとつて教会とは」を予定しております。

連合会の運営委員会は、時代の波に乗ってZOOMによる会議です。アナログ人間の私も、最初はお教会のパソコンで先生に画面設定して頂いて始めて、今では自宅で出来る様になりました。色んな体験をさせて頂き有難いです。

○

さて私は昨年の緊急事態宣言の発令をきっかけに「朝参り」を自粛し、代わりに家で御祈念させて頂いたことにしました。夫と娘と三人でしています。その後ラジオ体操です。

「コロナと共に」の生活もだんだんと定着してはきましたが、そこで気づかせていただいた事があります。それは、「やはり信心の基本は教会参拝だな」ということです。それは、昨年90年祭を迎えられた鎌倉教会のことを見聞きして思われました。鎌倉教会は私が35年前にお参りさせて頂いていた教会ですが、教会長の小西真代先生が体調を崩されて、その後

を江戸川教会の原田敏先生が教会長として兼務して下さいました。それが5年前のことです。昨年はコロナ感染が心配の中、月に二度は鎌倉までお越しになり、月例祭などお仕えになられ、その思いを受けられたご信者さん方も、御用、ご信心に励まれ、次々とおかげをいただかれたようです。「神量らいは奇しくて人の思いぞ及ばざる」のみ教え通りです。

小西真代先生は、ご実家である幅下教会（名古屋のお世話で、安心の生活を送っていらつしやいましたが、昨年12月にお国替えをなさいました。お一人で一生懸命、御神務なさいていたお姿が目には浮かびます。

これからは、今までは形を変えてその歴史が続くことになりましたが、そうした鎌倉教会の事を通して、やるべき事をコツコツと続けることの大切さを改めて教えていただきました。今は、参拝している相模原教会の安達先生にご配慮いただき、朝10時の教会参拝を心掛けております。



「第27回首都圏女性の集い」が開かれました

今回の女性の集いは、コロナの関係から、対面とリモートを併用して開催された。講師の松本峰子先生（浦和教会）は、一般人たちにも金光教のことを知ってもらおうにと、教会で起こってくる事例を交えて、生き生きとお話しくださった。

まず、教会やお広前は学び舎であり、お直会や清掃なども、祭事の一環として取り組んでいる。また、お広前は安心の空間であり、悩みを抱えている人たちにいつでも開放されている。ホームレスの人たちや、全身刺青をしたような人たちとも関わることもある。そういう人たちと接していると、いかに自分が偏見の眼で人を見ているかということに気付かされるという。



また、教会は祈りの大切な場である。信心は家庭が練習帳と言われるように、次々と問題が起こってくる。それを折り合いから折り合いに変える場であり、そのことによって生き方が変わってくる。

引きこもっている娘さんの友達を半年預かったことがある。その彼女に、松本家はバカみたいに平和ボケだと言われた峰子先生は、「神様どうやってやりましょう」と心の中で叫びながら、平和を維持するために、一人ひとり精一杯努力していることを訴えた。その後、彼女はどのように歩まれたか定かではないが、息子さんが彼女のことを心の中で祈っていたことを知る。

それから、認知症になったお母さんが、いつもありがとうと感謝し、お祈りしてますよと言って、ホームのスタッフさんたちに慕われ可愛がられていたことを知り、アンチ神様だった娘さんもお参りするようになった例を挙げて、教会の先生はずっと、願い事を一生懸命聴き、神様に取次ぐ生き証人であるし、各自の祈りは、亡くなった後々まで働いている、と祈りのすごさを話された。

松本家では、トラブルが起こるとお広前

で話し合うことにしているそうだ。夕食作りについて息子さんと気持ちをぶつけあった時、息子さんに、「あんたは何も変わらなない。トラブルのことよりも、母さんの言い方、怒り方に腹が立つ」と言われ、自分は今まで、声のトーン、目、背中で何を語っていたかと思ひ知らされた。お広前は、自分が変わっていく場、自分が映し出される場でもあると。

それぞれ大切にしている御教えは何だろう。峰子先生は、教典ワクワクとして3つ紹介された。1つ目は、科学の眼で、俗習、迷信を破ったこと。2つ目は、「今月今日で頼め、おかげは和賀心であり」と、自然の免疫力を説かれた。笑うこと喜ぶ心は万能薬である。3つ目は、「心は広う持つておれ」と、どこにいても心の中に世界があり、願えば、神様はどこでも来てくれる。御教え1つとってみても、捉え方、感じ方で大きくもなり、深くもなるように思われた。

それから、2人のお父様の生き方が今も心に残り、いろいろと心に問いかけてくる。実のお父様は、大腸ガンのため、人工肛門をつけておられた。さぞかし不自由であろうと思われるのだが、お父様は愛お

（4ページ上段へ）

○教話講師研修会

神奈川山梨教会連合会では、毎年定期教話（昨年度は中止）を行っていますが、今年度の実施を前に、4月14日、教話講師研修会を開催しました。研修会は、コロナウイルス感染の広がりを受け、リモートで行われ、参加者は12名でした。

講師の川上功績先生（品川教会長）は、「現代人の心と教会・教導」今、教会に何が起きているか」と題して、教話をめぐる現代社会の人間の問題を次のように語った。

○

現代は、自己決定・自己責任が求められる時代である。現代人は人に弱みを見せることができない。取次においても、教導されることを好まず、お詫びし改まるということを受け入れることが難しい。教導することよりも、自己責任社会に生きることに疲れた人に癒やしを与えることが、教会の役割として求められている。

また、プライバシー意識の強い社会では、信徒の難儀を他の信徒に話すようなことは絶対にあつてはならないことである。祈り合いということも含めて、個人の悩みを他の信奉者と共有することはできなくなっているのである。人間関係が希薄な社会では、

人の難儀は見ても見ぬふりをするものであり、共苦共感の感情は否定される傾向がある。

かつては、おかげ話で信心が伝えられてきたが、現在は個人のおかげ話を公にすることが難しい。おかげを受ける元となる「難儀」は知られたくない恥であると考えるからである。

現代は、共通の価値観を持った多数派としての「大衆」がない時代であると言われている。それぞれが、協調を好まず、「弱み」をさらして相談することを好まず、独自の関心を持って生きている。自己完結型の人間が生きる社会になっている。

このような人間の変化を認識した上で、何を語り、どう取り次ぐのかを求めていかねばならない。今私は「自分の神を持つ」ということと「教えに救われる」ということを語るようにしている。

教祖の信心は、ある意味で「自己決定・自己責任」の信心である。「人を頼むにはおよばない。真の信心をして、自分で願っておかげを頂け」「わが心からも練り出すがよい」という教えの言葉は、自分の神を持ち、皆が取次者になるという信心を促すものである。「神になりても、神より上になるとは思ふな」と戒めつつ、信心を個人に集約し

ていくものなのだ。その意味では、教祖の信心は、現代を生きる人間に対して開かれたものである。

また、習字をしていてある程度書けるようになっていても、手本をはずすと書けなくなる。習字に手本が必要なように、私たちに教えという手本が必要である。自分の神を持つためには、教えという手本にすがっていくことで、助かる道がっていくのである。

今こそ、金光大神の信仰が力を持つ時代であると思つて、伝え方を求めていきたい。

○

（4ページ中段へ）



写真左上が講師の川上功績先生

(2ページより)

しように撫でながら、「何の、東向きの玄関から西向きに変わっただけじゃ」と言われる。日本で4例しかない難病になった時も、「誰も成し得んことをしよる。日本で5本の指に入る偉業を成し遂げましたわい」、「やっと世の中のお役に立てますね」と返すと、「はい、あなたからお礼申し上げます。ください」と。峰子先生がガンになった時も、柿をガリガリ食べながら、「天地のお恵みはうまかなあ」と。またお父様2人とも、迷惑をかけて死ぬと宣言していたが、2人ともさほど迷惑をかけずに亡くなられたそう。

お父様が学生の時、性を買いに行った話は印象的であった。若い娘さんに面と向かって赤線の体験を話すお父様。それを真剣に聴く峰子先生の姿が浮かんでくる。峰子先生にとっては、そのことが人間の尊厳を考える一歩であったし、信仰の出発点であったと語られた。

先生には、時間いっぱいまで多岐に亘ってお話を聞かせていただいた。これからの信心のテーマをたくさん与えられたようにも思われた。この講演は、YouTubeで配信されていますので、拙い報告文を補

っていたければ幸いです。

(吉岡裕子)

※音声データがあります。お聞きになりたい方は、総務村田(子安教会)までお知らせください。また、映像も併せてご覧になりたい方は、限定配信ですので、金光全国信徒会のHPから関東教区信徒会のページに入るとご覧になれます。



(3ページより)

講話を受けて、各自感じるところが出されました。その中で、参拝された方がお届ける前に、家族から既に聞いている事柄について反応を返してしまつて、せっかくのお届けの機会を奪つてしまつて、今も戒めとして心掛けています。また、講師の話とは逆に、教会では皆でそれぞれの難儀を語り合っているなど、様々な意見、感想が出され、活発な学び合いが行われました。

(山田信二)

【お知らせ】

○教師信徒研修会

日時…6月5日(土)

13時30分～15時40分

会場…ZOOMによるリモート開催

※当日はPCまたはスマホでご参加ください。

※各教会まとめて、5月20日までに申し込みください。後日ZOOMアドレスをお送りします。

○女性のつどい

日時…6月20日(日)

13時30分～15時30分

会場…丸子教会

テーマ…「私にとって教会とは」

発表 渡辺宣子さん

藤澤昌子さん

(丸子教会信徒)

※各教会まとめて、6月12日までに申し込みください

各行事共に、詳細は教会に配布されているチラシをご参照ください

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田信二

横浜市泉区下飯田町926-23

〒245-0017 金光教横浜西教会内